

佐賀県教育センター 所報

No.57

もくじ

○ 卷頭言「三つのことば」	1
○ 指導のチェックポイント「中学校理科」	2
○ 指導のチェックポイント「小学校社会」	4
○ 受講者の声と講座風景	6
○ 教育相談Q&A「再登校へ向けて//」	8
○ 平成3年度長期研修生の紹介	9
○ 指導資料ガイド	10

卷頭言

三つのことば

佐賀県教育センター 次長 森永勝俊



縁に囲まれたここ教育センターでは、今日も各年代層の先生方が研修に励んでおられる。私も以前はよくお世話になったもので、過ぎし若き日のころがいろいろと想い出される。なかでもその当時、三人の先輩先生からご指導いただいた次の三つのことばは現在でも決して忘れることができないものである。

「〇〇教科の指導においては〇〇先生だ、といわれるよう得意教科を早くもちなさい。」とU先生。「研究授業を頼まれたら、決して断ってはいけない。苦労は買って出なさい。」とM先生。定期異動でH校へ転任の時、「いっちょ、きばってもらおうか。」と厳しくも温かいことばで送り出してくださったN校長先生。この「きばって」ということばに、私は何か身の引きしまる思いとともに、校長先生のこの期待に是非きばってこたえなくてはと、自分にいい聞かせたものである。

私にとってH校への転任は、教師として力をつけ、鍛え上げてもらう絶好の機会であった。周りの多くの先生方からいろいろとご指導をいただいた。研究テーマに対する研究の厳しさをはじめ、自分の授業を創

るための指導法の研究、教生の指導など苦労も多かった。研究発表の要項審議会の時、苦労して作成した審議資料をいろいろな視点から厳しく検討、指摘されるたびに、自分の非力さを思い知らされ、参ることも幾度ともなく味わった。しかし、H校全教職員、やる気満々の環境の中、全校一体となり、子どもの望ましい変容を願っての教育活動への取り組みは、「明日も！」という活気にあふれ、充実した日々であった。

昨今、教師の自己教育力が問われている。「鉄は熱いうちに打て」という諺があるが、いつまでも熱くしておき打ち続ける姿勢を失ってはいけないと思う。教師のそのような不斷の歩みに子どもは必ずこたえてくれるものである。H校においてこれら何物にもかえがたい貴重な経験を得たことが、私に自信を与え、教師としての心の大きな支えとなっている。これも三つのことばのおかげである。

私を一人の教師として鍛え、育ててくれた上司、先輩、同僚にめぐりあえたことは、本当に幸せであったと、しみじみと思うこのごろである。

指導のチェックポイント

理科教育における教材確保について

—中学校理科第2分野—

佐賀県教育センター 研究員 吉田 喜美明



1 はじめに

新学習指導要領では、一段と実験・観察の重視が唱えられている。ところが、実際には実験・観察の授業には多くの条件が必要であり、必ずしも満足できる条件が整った学校は少ないものと考えられる。

その理由としては、予備実験・観察の時間不足、予算、教材の確保、実験・観察の用具の充足率、資料の蓄積、教師自身の専門性など多くの要因が考えられる。

それらの中でも、ある程度は教師自身の努力によって解消できるものもあるが、一度に全てが解消できることは少なく、時間をかけて解消して行く努力が必要であろう。

そこで、教材の確保について早急に実施可能なものについて記してみる。

2 指導計画の確認

まず、いつ、何が、必要か確認する。特に生物の場合、直ちに入手できない種類も多いので1年間の計画は準備室に掲示しておく。

また、多くの実験・観察を伴うため、理科教師全員で作成することが望ましいが、1校1名の場合は近隣の中学校や教育センターから資料を取り寄せて作成する。

3 季節や環境を考慮する

例えば、第2学年の生命の連続性の教材として、カスミサンショウウオの卵を野外より採集して、卵の初期発生を実際に生徒に見せることにより、学習効果が一層高まった。

この場合カスミサンショウウオは県内の海拔100m未満の自然林が茂る周辺の小さな水路(U字溝)に普通に棲息しており、1

~12月に棲息を確認しておけば、翌年の1~2月に受精卵を採集して、直ちに授業に用いる事ができるし、各ステージを10%アルコールの液浸標本にしておけば、いつでも使用できる。

蛇足であるが、標本を作製する場合に、1頭でも殺せば生命尊重論や自然破壊論を持ち出される先生がいらっしゃるが、授業で用いる程度の頭数では、生物の種の維持にはなんら影響は無い。ただ無益な殺生は理科教育ならずともやめるべきである。

第3学年では、遺伝が新たに復活したためトウモロコシやエンドウが教科書に載るであろうが、これらはF1からF3までの累代栽培が大切であり、累代栽培に2~3年を要するために、栽培園を確保し、第1学年からの指導計画を作成しておかねばならない。

二例を記したが、採集にせよ栽培にせよ、時期を逸したら1年待たなければならず、日頃の管理が大切である。

すなわち、何が、いつ、どこで、どんな形で、どんな方法でといった一覧表も作成しておく必要がある。そのためには、日頃から時間を作って学校周辺を観察したり、栽培園の管理をしておかねばならない。

これらを一人の教師で作るのは大変であり、教育センターに問い合わせをするのもよい方法であろう。

4 学校行事の利用

野外観察を理科の授業中に組めない学校でも、学校単位で郊外へ出る機会はかなり多く、この時間を活用することもできる。

例えば、学校から目的地までによく目につく生物の種類や簡単な生活史などについて

ての解説書を作成して、校長の許可をもらい生徒に配布する。この場合、生徒の気付きを書き込める欄を作つてやっておくのも一考である。

また、修学旅行で火山地帯に行った時に、フィルムケース数個に火山灰や溶岩を採集しておくと火山灰に含まれる鉱物の検鏡や溶岩の作りを学習する際に活用できる。

5 単一的な実験及び観察にしない

植物の体のつくりを調べる場合も、プランターに土を入れた苗床を作り、播種、育種、開花、結実と一年草を用いれば多くの観察が可能であり、水耕栽培で必須元素の組み合わせによる成長差や透明容器を用いることで根毛の観察も可能である。

6 学習の動機づけのチャンス

直接体験が少ない生徒に対しては、教師から確実な働きかけが必要である。数例記してみる。

- (1) 校内の樹木に名札を付ける。
- (2) 校内に飛来する野鳥の簡単な説明文を写真と共に野鳥が観察できやすい野外に掲示する。
- (3) 理科作品展や理科研究発表会を活用する。理科が好きな生徒には、この2つの会に出場させ、その資料を理科室に展示する。
- (4) 新聞の科学関係の話題やニュースなどを、理科室に展示して、生徒の興味・関心を起こさせる。
- (5) プールの水抜きを理科の授業で行うと、プール内に生活していた色々な水生生物を観察することができる。
- (6) 標本を充実する。教師が採集して作成する時間が無くても、生徒の理科の自由課題で提出させれば、かなりの標本が揃う。さらに、事前に採集や作成方法を指導しておけば、より立派な標本が揃う。その時に採集ラベルは必ず付けさせる。

また、その作品が植物標本であれば、パウチでコーティングしておくと虫食いやカビを発生させることもない。

このように色々な方法を用いて理科室に資料を収集・展示し、生徒に自由に

触らせることによって、興味・関心を高めることができる。

7 身近な自然と日常生活との連係

第1学年の微生物の観察も教師が授業直前に採集してくるよりも、1ヵ月前から容器に水をはって、日が当たる所に放置しておくだけで、1ヵ月後には植物性プランクトンや水生動物が発生している。これなども放置した日から継続観察させると面白い結果が得られる。

8 創造性や表現力の育成

実験・観察を事前に指導しておくことも大切であるが、生徒自らに計画させ、準備させることも大切である。

確かに教師が考えなかった発想や工夫が出てくることもあり、それらを大切に伸ばしてやりたい。

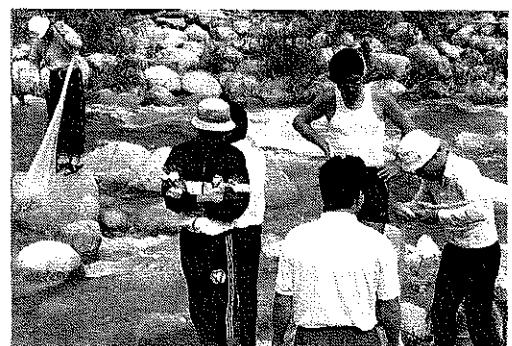
また、それらをレポートとして書かせることによって表現力の育成も行える。

すなわち、上げ膳据え膳の実験・観察は最少限にとどめるべきであろう。

9 おわりに

指導のチェックポイントとしては不十分になったが、なかなか学校では準備出来難い点もあるかとは思う。その時こそ、センターを活用していただけたらと考えている。

センターでも実際にできない点もある。それはエンドウの育種に関して、使用できる栽培園がないので、育種できる学校と連絡を取り合って、県下の学校に配布できるようなシステムを作りたいと考えている。



水生生物の教材確保：平成3年度中学校理科講座風景

追求力を高めるための社会科指導法の手だて

—小学校6年歴史学習を通して—

佐賀県教育センター 研究員 貞包 弘章



1はじめに

当教育センターの社会科研修講座の受講者の先生方から、「社会科の指導は難しい。」ということを聞くことがある。

特に、子供一人一人の問題意識の持たせ方、意欲的な追求のさせ方などに指導の困難さがあるようである。

社会科の学習では子供一人一人の切実な問題意識をバネとして、自分で調べ確かめながら社会事象の意味を粘り強く探ることで、思考力、判断力が育成されると考える。

以上のようなことから、追求力を高める指導の手だてについて、6年生の歴史学習単元「聖武天皇と奈良の大仏」を例にとりながら考えてみたいと思う。

2追求力を高める手だて

(1) 問題意識を持たせる手だて

一人一人の子供に問題意識を持たせるためには、次の様なことを考慮して教材と出会わせることが大事である。

- ・子供の意表をついたり、固定概念をゆさぶったりする。

- ・子供に新鮮さを感じとらせる。

そのため「聖武天皇と奈良の大仏」では大仏の顔の部分などを新聞紙で作る活動などが取り入れられる。しかし、この活動は数時間と広い場所が必要であり、子供の意識は、大仏の大きさに向かわれ、(なぜ、どうして)という問題意識しか起きてこない。そこで、実践では眉の実物大の模型を提示し、それが何かということから一人一人の子供の興味・関心を引き起こし、身近なものと長さを比べさせて、大仏の大きさへのイメージを高めた。そして、その後、大仏の大きさ、大仏造立にかかった費用、年月、労働力などの資料を提示し、身近にあるものと長さや大きさ比べをしたり、知っている

事象と比較させたりした。その結果、大仏の大きさだけに限っていた子供の問題意識が聖武天皇の願いや当時の人々の苦労や思い、造立の技術にまで広がり、単元の本質に迫る問題意識にまで高められた。

資料-1 子供が持った問題意識(37人)

どんな目的でこんな大きな大仏を造ったのだろうか	37人
どのようにして大きい大仏を造ったのだろうか	6人
働いた人たちは、どんな思いで造ったのだろうか	3人
その他	5人

(2) 追求意欲を持続させる手だて

一人一人の子供が確かな問題意識を持ち、自分なりの予想(考え)を持つことができたならば、調べてみたい、解決したいという追求の意欲は高まったと言える。しかし、実際に追求していく中で、この意欲がしだいに失なれていくことがよくある。

そこで、「聖武天皇と奈良の大仏」では、一人一人の追求意欲を持続させ、主体的な学習に取り組ませるために、次のような手だてを取り入れた。

① 調べる、表現する、話し合う、の活動を関連させて取り入れる。

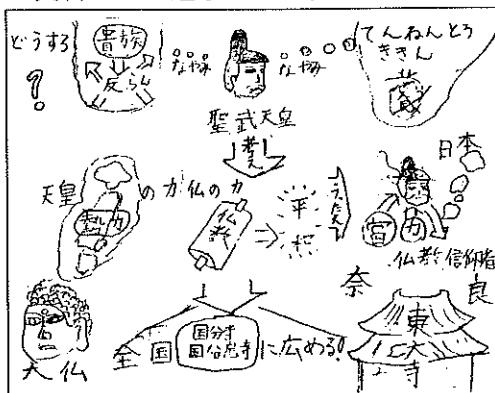
『追求1』大仏を造ったわけについて調べるでは、まず一人調べをさせ、次に調べてわかったことをイラストで表現させた。そして、全体の場で発表させ、話し合いを深めていった。

追求する事ががらが絞られている時には、調べる学習から入り、話し合いの場でさらに深めたり、広げたりしていくことが効果的である。

その結果、子供は事象を相互に関連づ

けた見方・考え方ができてくるようになった。

資料-2 追求1の子供のイラスト



このイラストからは、聖武天皇が国内の乱れを正し、天皇の力を示すために仏教の力を借りたと考えていることがよくわかる。

『追求2』大仏造りの方法について調べる。『追求3』大仏を造った人々のおもいについて調べるでは、追求する事ががらが多くなったため、まず、話し合いの場を設けて、焦点化を図った。そして、一人調べ、話し合い、表現するという活動を取り入れた。

話し合いにより、調べる事を明確にしてやることは、内容の深まりとともに時間の有効な使い方にもなる。

さらに、調べたことについて発表し、話し合う場合には、わかったことだけでなく、わからぬことについても明らかにすることが大事である。子供は、このわからない事について、さらに調べてみたいという気持ちを持ち続けたり、実際に授業後に調べてきたりして、追求意欲を持ち続けることができる。

② 学習の歩み(追求の足跡)が見えるような表現活動を取り入れる。

一人一人の子供に数時間にわたって追求意欲を持続させるためには、自分で学習の歩みがはっきりつかめるようにすることも大切である。

そのためには、追求していく中で表現活動を適宜取り入れていくと効果的である。この学習では、『追求1』、『追求2』、

『追求3』の段階で、それぞれイラストによる表現活動を取り入れた。

資料-3 追求2の子供のイラスト



資料-4 追求3の子供のイラスト



子供はこれらのイラストを見ることで、いつでも自分の学習をふりかえることができ、確かな学習のもとに次の学習へ進むことができた。そのため、学習の流れが把握でき、意欲も持続できたと思う。

そして、これらのイラストはまとめの学習の時に作る歴史新聞の資料としても活用させた。

3まとめ

この実践では、追求力を高めるためには、問題意識を高め、追求意欲を持続させることが大事であることがわかった。

課題としては、子供が授業外で自主的に調べたことを、どう生かしていくのかを研究していく必要があると思う。

受講者の声と講座風景

本年度実施予定126の講座も10月末日までに95の講座が終了しました。ここで受講をされた多くの先生方の中から、4名の先生に“受講者の声”として、述べていただいた感想を紹介いたします。

リズミカルにリフレッシュ
—小学校音楽科講座を受講して—

肥前町立入野小学校星賀分校

教諭 辻 結美子

教師生活20年を過ぎると、何事につけて、これまでの研究・研修不足や経験にたよらうとしてきた甘さのつけが我が身にありかかってくることを痛感することが多くなってきました。とにかく勉強のやり直だと思って申し込んだ講座でした。

講座は、「リズム・身体表現・器楽指導の基礎的技術の向上」を研修目的として佐賀市文化会館の快適な冷房の中ありました。講義、実習、実践発表、実技と、めいっぱい頭と身体を動かした2日間でした。特に「感じる心・表現するからだ」の実習は、さわやかな感動の体験でした。



身体表現とリズムの実習

「踊らにゃいかんのだろうな。恥ずかしいなあ。まさか一人ずつってことはないだろな。」若い先生たちの中にまじってただ一人身も心も若さを失いつつある私は、人知れずため息まじりに重い腰をあげましたが、そのままかが、やっぱり。。。でも大丈夫でした。講師吉牟田先生の絶えない笑顔、若々しさ、一人ひとりのよさを素早く見つけて語り、励ます言葉くぱりにぐんぐん心が開いていくのが分かります。先生の魅力に圧倒され音楽に合わせて汗を流しているうちに恥じらいは素直に表現する自分へと変身していたのです。

音楽の学習も技能伝達式でなく、子供の心を開き、やる気を引き出す教師の力量により、イメージをよりどころとした感覚的個性的で、しかし興味深く学習できるような指導をしていかなければと大いに考えさせられました。

障害児をとりまく人々との出会い
—特殊教育講座を受講して—

佐賀県立金立養護学校

教諭 山口由紀子

この講座を受講してみて、精神薄弱児の教育は、わたしたち教育者だけでなく、親・医師・寮母・施設の方々、その他彼らをとりまくたくさんの人々の理解と努力によって成り立っているということを再確認することができました。

中でも福岡の歯科・緒方先生の話は、歯科医療を中心に子どもたちの健康維持、福祉に対する考え方など、治療だけでなく広い視野に立ってのこと、とても感動しました。「全ての病気の予防は、清潔にすること」という言葉は、まったく日常生活動作の自立していない子を担当している私にとって忘れていた大切なことを思い出させてくれました。



交流教育についてのグループ討議

国立肥前療養所の益本先生は「子どものこころとからだ」という話の中で、具体的な数字によって発達の特徴や実態をあげられ、今、実際に担当している子どもにあて

はめながら聞くことができました。お医者さんと聞いてきっと難しいことを話されるのではないかと心配していたのですが、保健の先生の話を聞いているようで、お医者さんをちょっぴり身边に感じました。

今回の講座では、同じ子どもたちにいろいろな立場からぶっかっている人々に出会うことができ、そこから新しい考え方やいつもと違う見方が出来たようです。今後もいろんな人と出会う機会をもうけ、少しでも広い視野をもって子どもに接していくければいいなと思います。

新学習指導要領の全面実施に向けて
—高等学校家庭科講座を受講して—

佐賀県立牛津高等学校

教諭 江口ミチコ

今回の学習指導要領の改定で家庭科は全ての生徒が履修することになり、「家庭一般」のほかに「生活技術」、「生活一般」の二つの科目が設けられました。今回受講した電気・機械講座は「生活一般」の新しい領域です。

途中1日の見学を入れて4日間の講座は基礎となる教材観の検討から始まり、オール電化の家の見学や200Vの体験として最新の機具を用いた調理実習まで、学習内容及び方法ともに非常に変化に富み、興味深いものでした。



家庭電気におけるプラグ実習

この領域に関しては、日常生活の中で家庭用機器を無意識に使用してはいるものの教材として指導する場合に、何を、どのように取り上げたらよいか、不安な気持ちがありました。今回の講座を受講して、教材研究の視点が理解できたことが一番の収穫だったと思います。これまでには、まだ教科書もないままに、指導要領の解説を頼りに肩に力を入れて対処してきた領域でしたが、多くの資料も準備していただき、今後は肩

の力を抜いて、楽しみながら研究することができるよう思えます。

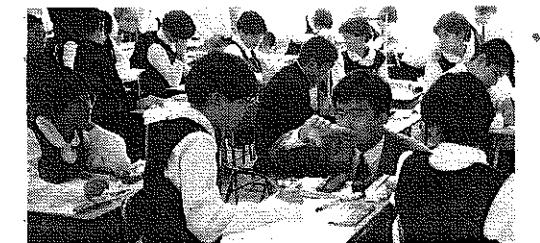
福岡のオール電化の家を本県にも設置してもらえば生徒にも見学の機会が得られますし、今回体験したシーズヒーターやハロゲンヒーターによる調理実習等も、ぜひ、生徒に体験させたいと思いました。体験学習の楽しさを深く味わうことができた講座でした。

課題学習にいかに取り組むか
—中学校数学科講座を受講して—

塩田町立塩田中学校

教諭 武富幸就

今回の講座は、諸先生方の実践報告や学習指導要領の改訂についてなど興味をそそられるものばかりでした。その中でも特に興味をもったのが、今、中学校の先生の間で注目されている課題学習についてでした。参考文献もあり出されていない時期ですので、課題学習の意義など全般的なものについての理解が深められ、課題の作り方の糸口が見つけられたと思います。



公開された課題学習的な授業

公開授業では、課題学習の内容で生徒が自主的に活動できるように展開されていて、私にとっては課題学習の授業展開を頭にイメージさせながら拝見することができました。

演習では、実際に課題作りに取り組んではみたもののなかなか難しく、「これだ!」と思った問題も、「生徒にとっては難しそうのではないだろうか。」など色々と考えてしまい、また最初からやり直しといった感じでした。課題学習は、これから取り組んでいかなければならない内容ですが、現在は教材としての課題を見つけ出ことに励んでいる毎日です。

教育相談Q & A

再登校へ向けて!!

——「先生がこわい」と登校拒否になったK子の事例と対応——

Q K子は、小学4年生の4月にとなりの市から転校してきました。ところが、一週間目からまったく登校しようとしません。お母さんが力づくでひっぱってこられて、何とか教室に入れようとするのですが、入口で立ちすくんでしまい、一步も動けません。やっと特殊学級の先生の教室になら入れるようになりましたが、原級にもどそうとすると、次の日から欠席をします。担任として、どうすればよいのでしょうか。

A K子、お母さん、担任の先生に来所してもらいたい、それぞれに話を聴いてみました。特に、転校してきた当初の頃をくわしく思い出していただいた結果、次のようなことが明らかになってきました。

K子は、新学期の第1日目から新しい学校へ通学しました。4年生はクラスがえもなく、担任も持ち上がりということで、すっかりまとまっている雰囲気の中に、一人だけが入る形になりました。なじめないで廊下で尻込みをしているK子に、担任の女の先生が「みんな待っているので、席につきなさい」と、腕をとって教室に入れようとした。その時、K子の中に先生に対する強い恐怖心が起ったようです。帰宅後、母親に「今度の先生はこわい」と訴え、以後、ほとんど毎日のようにそう言い続けました。母親はK子の中で、先生をこわがる気持ちが次第に強くなっていくことを心配して、「先生はこわくない」ということを、いろいろ言いきかせましたが、効果はありませんでした。

担任の女の先生は、家庭を持ち、子供さんもいるおだやかなやさしい先生です。決してこわい先生ではないのです。しかし、子供は一度こわいと思い込むと、毎日、先生のこわいところばかりが目について、恐

怖心が増大します。そんな時、K子の不安定な状態をやさしく受け止め、上手に対応してくれたのが特殊学級の先生だったわけです。その先生の教室に入り込んでいったのは、自然のなりゆきみたいなものがあったろうと思われます。特殊学級の先生は、徐々に慣らしていこうと、K子を原級に少しずつ行くようにさせられたようですが、なかなかうまくいきませんでした。

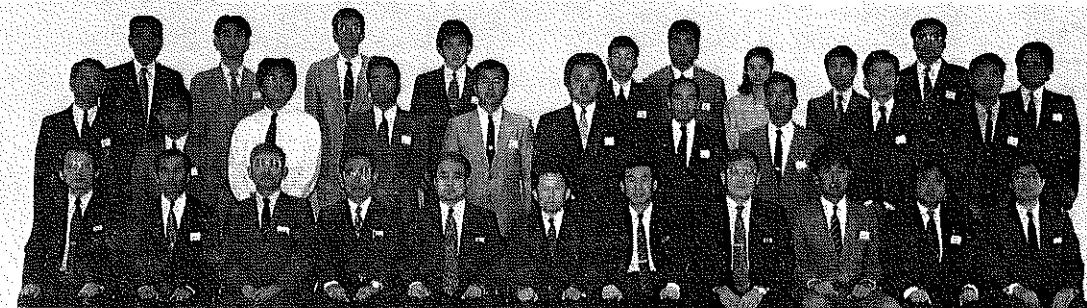
☆ 担任の先生が、K子を訪問

K子が原級の教室に行けないので、担任の先生に、昼休みK子のいる特殊学級に5分でも10分でも訪問してもらうことにしました。できるだけK子のそばにいて、先生がこわくないことを感覚的にわからせるためです。特殊学級の先生にも、K子と担任の先生との関係の修復をはかるために、少し離れた位置から二人を見守ってくださるようにお願いをしました。一方では、クラスの子供たちを夕方K子の家に遊びに行ってもらい、友達関係をつくりやすいように配慮してもらいました。

夏休みになって、担任の先生は、できるかぎり家庭訪問をくり返し、K子に声をかけたり、一緒に何かをするようにさせたり、母親と世間話をしてくださいました。時には、クラスの子供たちと一緒に遊ぶ機会をつくってくださいました。K子のそばで、先生がこわくないことを、理屈や説得ではなく、肌で示してくださったわけです。担任や特殊学級の先生方の、気の長い、根気強い関わりによって、K子は、9月から元気に教室に入れるようになっています。

とくにこわくない先生であっても、ちょっと叱責されたことから恐怖心を持ち、それがどんどん増大して、登校できなくなったりました。こんな場合は、子供と一緒に楽しく遊んで、こわくない先生であることを実際に体験させることが大切です。

平成3年度 長期研修生紹介



「入所式」後の記念撮影

氏名	所属校	教科・領域等	研究主題
宮原久直	切木小学校	小学校国語	文学教材を脚本化する指導の工夫
富吉猛	西川副	〃社会	問題意識を喚起し追究意欲をかき立てる指導法の研究
道田正博	北茂安	〃算数	主体的な思考活動を促す算数科指導法の研究
福田浩一郎	佐志	〃理科	身近な素材を使った教材教具の開発
晴氣和明	勧興	〃〃	4年新内容「光電池」の学習指導法の開発
池田信也	山代東	〃〃	意欲的活動を促す観察指導の工夫
横尾芳幸	神埼	〃道徳	児童一人一人が価値を主体的に自覚するための効果的な指導過程を求めて—導入の道徳の時間以外への設定を通して—
中島和芳	轟	〃特別活動	見通しをもち、自主的な話し合いのできる学級活動の研究 —「討議場合毎の模範進行パターン」を用いて—
前山純一郎	伊万里	〃CAI教育	小学校社会科におけるパソコンの利用について
野口敏雄	北茂安中学校	中学校社会	論理的思考力を高める社会科学習指導法の研究 —公民的分野における「環境問題に関する課題学習」の指導を通して—
糸山正孝	富士	〃数学	論証の能力を高める指導法の研究
梶山厚	嬉野	〃理科	潮間帯にみられる生物の教材化のための基礎的研究
森山洋一	昭栄	〃教育相談	問題行動に対する教育相談の実践的研究
牛島一孝	基里	〃教育評価	評価を生かした生徒の道徳的判断力を高める指導方法の研究
杉原豊樹	国見	〃特別活動	学級活動において支持的風土を育てる班活動の研究
杉町徹	鍋島	〃CAI教育	中学校美術科におけるコンピュータの利用について
亀山早苗	大和養護学校	県立学校特殊教育	発達に遅れのある子どもの言語指導に関する研究
樋口英司	伊万里	〃〃	障害児の「行動変容」について
吉田仁	唐津北高等学校	高等学校国語	形成的評価を取り入れた評論文の学習指導法の研究
中原正登	白石	〃理科	生態系のしくみの理解を目的にした郷土の自然の教材化
土師啓利	鳥栖工業	〃教育相談	問題行動を起こす生徒への教育相談の実践的研究
深町俊善	鳥栖商業	情報処理(商業)	プログラム言語学習および「総合実践」に関する教材作成
山口義之	佐賀農業	〃(農業)	「農業情報処理」における計測・制御とその教材研究
中山直美	伊万里農林	〃(家庭)	BASIC言語学習および「家庭一般」の教材作成

指 尊 資 料 方 イ ド

「生活科」と「登校拒否」に関する資料を紹介します。当教育センター資料室で御利用下さい。

「生活科」

[受付番号]

- 地域の特性を生かした生活科の学習展開 京都市永松記念教育センター 90-285
- 子どもがいきいきする生活科の授業 熊本市教育委員会 90-405
- 小学校生活科における指導計画のあり方に 岩手県立総合教育センター 90-439
関する研究
- 生活科の授業の創造に関する基礎的研究 東京都立教育研究所 90- 2
- 小学校生活科の基礎的研究 鹿児島県総合教育センター 90-143
- 子どもの自立を目指す生活科の展開 愛知県教育センター 90-152
- 生活科における体験活動 福井県教育研究所 91- 40
- 生活科の指導に関する調査研究 富山県総合教育センター 91-110
- 楽しく活動しながら自立への基礎を養う生 大牟田市教育研究所 91-111
活科学習指導法の研究
- 生活科の学習環境に関する調査研究レポート 中央教育研究所 91-152
- 豊かな経験を生かした生活科の展開 山形県教育センター 91-223

「登校拒否」

[受付番号]

- 中学生に対する教育相談的かかわりに関する研究 島根県立松江教育センター 90- 67
- 教育相談の手引 富山県総合教育センター 90-195
- 学校体勢づくりを中心とした教育相談のあり方 高知県教育センター 90-283
- 無気力傾向生徒への援助に関する研究 東京都立教育研究所 90-388
- 自分さがしをする登校拒否生徒事例研究 福岡市教育センター 90-119
- 児童生徒の不登校に関する学校の取り組み 山形県教育センター 91-221
や指導援助の進め方についての研究
- 登校拒否児童・生徒が自己受容をめざす 「ふれあい学級」の試み 別府市教育センター 90-480
- 集団治療で早期学校復帰を（フレンド学級 のあゆみ） 福井県教育研究所 91- 40
- 教育相談についての校内研修のあり方に関する調査研究 埼玉県立南教育センター 91- 77